

微生物学検査のご依頼について

- ①材料採取部位ならびに材料名を必ずご明記ください。
- ②薬剤投与中の材料採取の場合は、使用薬剤名をご明記ください。
- ③菌株接種培地にて、培養・同定のご依頼の場合は、培地を室温にて保存してください。
- ④必要な場合は目的菌をご依頼ください。特に性行為感染症における淋菌、腸管感染症におけるカンピロバクター、腸管出血性大腸菌を疑う場合は必ずご依頼ください。

主要材料の接種保存方法

①口腔・気道・呼吸器系材料

●喀痰

口腔内在菌による汚染を防ぐため、滅菌生理食塩水で2～3回が洗いしてから喀出痰を接種します。できるだけ唾液・鼻粘液の混入は避けるようにしてください。

●咽頭液

滅菌生理食塩水でうがった後、滅菌綿棒（シードスワブ2号）で病変部をよく擦って粘液を採取してください。

②消化器系材料

●糞便

急性期の排出便を採取します。糞便の量は1g程度とし、輸送培地（シードスワブ2号）の深部に入れてください。便の状態を含め臨床所見は病原菌検出に大きな手がかりとなりますので、必ずご記入願います。

●胆汁

胆管内胆汁（A胆汁）、胆嚢内胆汁（B胆汁）、肝内胆汁（C胆汁）のうち、検査には通常、胆嚢内胆汁（B胆汁）を培養します。滅菌スピッツに2～3mL採取してください。

③泌尿器・生殖器系材料

●尿

患者自身が採尿する場合、適切な指示をしてください。男性の場合は、陰茎先端部を滅菌水で拭いた後に滅菌尿コップ等に取り、直ちに滅菌スピッツに入れてください。女性の場合は、膣などの常在菌汚染があるため、充分洗浄してからの採尿となります。消毒綿で消毒後、滅菌水を浸したガーゼで数回洗浄します。ガーゼは1回毎に取り替えるように指示してください。尿は滅菌尿コップ等に取り、直ちに滅菌スピッツに入れてください。いずれの場合も早朝尿が望ましく、前半尿を捨て、中間尿を取ってください。

●生殖器分泌物

男性は、陰茎をしごき、分泌物を採取してください。
女性は、外陰部を消毒した後、陰鏡を用いて滅菌綿棒で後陰内蓋部より採取してください。淋菌の疑いがある場合、検出率向上のため必ず目的菌に指定してください。**淋菌を疑われる場合は、室温保存**してください。

④血液・穿刺液

●血液

採血に当たり、穿刺部位を十分に消毒してください。消毒方法は、70%アルコールで穿刺部位を中心として円を外側に向かい描くように拭いていきます。その後、少し擦るようにします。乾燥後、ヨードチンキで同様の方法で消毒します。1分後に注射器で採血します。血液培養用ボトルは、あらかじめキャップを取り、ゴム上部を70%アルコールで消毒します。培養用ボトルへの血液採取量は3～10mLです。

接種後の培養用ボトルは、常温保存です。ふ卵器にはいれないでください。

●髄液

採取に当たっての皮膚の消毒は、血液培養の場合に準じて行ってください。

⑤そのほかの部位

●膿瘍・創傷

皮下組織や粘膜下の閉鎖性の膿瘍は、穿刺部位を消毒後注射器で採取し、滅菌スピッツに入れてください。開放性病巣のものは、化膿巣の周囲を清掃後、滅菌綿棒で膿性部を採取し、指定容器（シードスワブ2号）に入れてください。**ガーゼでの提出は検出率の低下をまねくおそれがあります**ので、ご遠慮ください。

細菌検査の材料とよく使われる容器

容器 NO	容器名	材料										保存	
		尿	尿道 分泌 物	咽 頭 粘 膜	腔 分 泌 物	喀 痰	膿 （ 開 放 ）	膿 （ 非 開 放 ）	胸 水 ・ 髄 液	血 液	耳 漏		便
5	尿スピッツ	●							●				注1
27	糞便一般											●	冷
54	喀痰容器					●							冷
54	シードスワブ2号		●	●	●		●	●			●	●	冷
55	血液培養									●			室

注1：目的菌により保存方法は異なります